

## 農地バンクとは

○農地バンクとは福島県農業振興公社の愛称です。

○農地を貸したい方から農地バンクが農地を借り入れ農地を借りたいまとまりのある面積で長期間貸付ます。

### 出し手のメリット

- ◆安心して農地を貸し出せます。
- ◆「経営転換金」が交付されます。
- ◆農業者年金の加算付年金を自給します。
- ◆贈与税・相続税・不動産所得猶予が継続します。
- ◆固定資産税の軽減措置が受けられます。

### 受けてのメリット

- ◆長期期間の安定した借入が可能になります。
- ◆農地の集約化より経営が安定します。
- ◆多くの出してとの契約でも、賃貸料の清算は農地バンク行うので事務が軽減れます。

### 地域のメリット

○農地バンクが貸し借りの仲立ちをし、賃貸料の徴収・支払いを行っていきます。

○公的機関の仲立ちにより、将来的に向けて地域の農、地を守ることができます。

○人農地プランにより地域で集積に取り組んだ場合、預け入れた面積の割合に応じ地域集積協力金が交付されます。（一度限り）

### 例えば

○人・農地プランエリア 17.2ha のうち半分 8.6ha を農地バンクに預けた場合  
＝50%の活用率となり交付単価（上乘せも含め）は、2.5万円/10aです。  
（地区に200万円）（※預入面積割合より、交付単価は変わります。）

※用途区域エリアは、協力金対象から外れますが、農地バンクへの貸付は可能です。

☆地域トピックス☆社のお披露目式を7/17（日）に予定しています。盆踊りについては未定ですが、やぐらを建てたいと思います。ぜひ、新しくなった神社で懐かしい顔で語り合いたいです。

お待ちしております。（大和田行政区長）

### お問合せ・ご意見先

浪江町役場 農林水産課（農政係）

☎0240-34-0246

福島県農業振興公社（浪江町役場3階駐在）

☎0240-34-0246

浪江町農業委員会事務局

☎0246-23-5706



# 川添北地区 人・農地プランだより

令和4年6月  
浪江町役場・農業委員会  
川添エゴマ管理耕作組合



5月12日、川添北地区の農地プランの座談会が開催されました。

参加者 川添北地区10名、関係者 13名（浪江町役場、浪江町農業委員会、双葉普及所、JA福島みらい、福島相双復興推進機構、福島県農業振

## あいさつ

震災前、この地区は水耕栽培が盛んな地区でしたが、営業再開にあたり、あらたな作物として、地域の特産であった「えごま」に着目し、今では、町内外から多くの取引ができるようほどになりました。今後は、この地区をえごまによる地域ブランディングを確立できるよう取り組んでいく所存です。

今回は、既に地域に戻り営農活動をしている方々から、現在の取組状況、抱負・課題などをお聞かせ願ひ、今後の人・農地プラン活動につなげていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

川添エゴマ管理組合長 畠山 育男

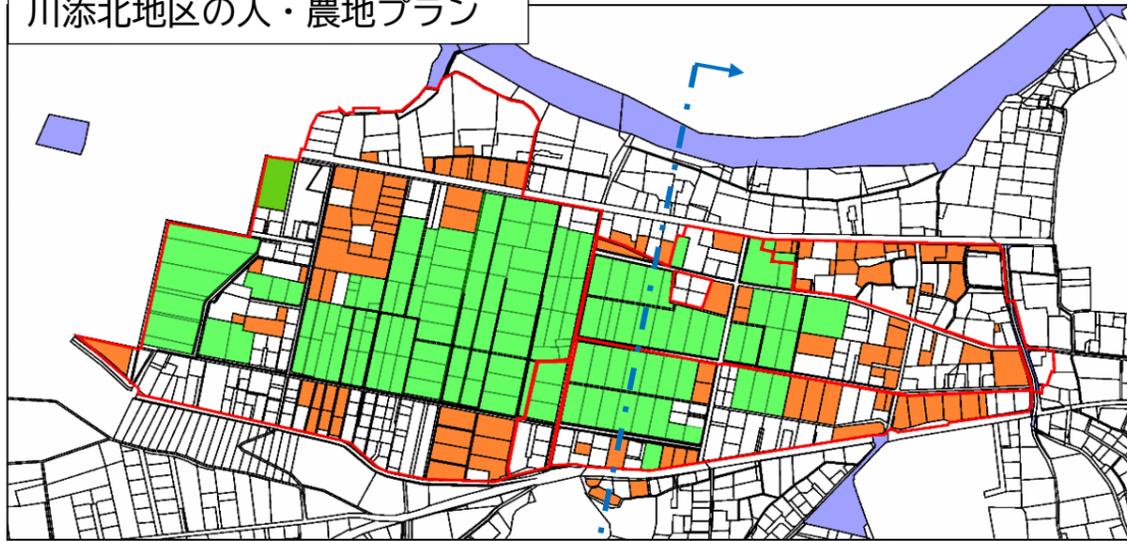
## 農地プランとは

高齢者に伴う担い手不足が全国的に課題です。この課題に対し、地域の皆さんが5年～10年後の地域の姿を話し合い「誰に農地を集約していくのか」などを地域の皆さんで決めていくのが人・農地プランです。今般、法制化されました。

### ◎進め方

- ①農業者の年齢と後継者の有無等をアンケートで確認
- ②これを地図化し、5年～10年後に後継者がいない農地を図面に書き込み「見えるか」
- ③これを元に地域の人を中心とした話し合いを重ね、5年～10年後の農地利用を担う農業者・経営体を決めていく。
- ④農業委員会でも人・農地プランを参考に目標地図として取りまとめます。
- ⑤人・農地プラン検討委員会に諮り、承認後は町のホームページに公表。

## 川添北地区の人・農地プラン



◎人・農地プランのエリアは赤線で囲まれている区域の農地

■ 令和7年度、川添エゴマ管理耕作組合、スマートアグリ・リレーショングの作付計画がある農地

■ 今後、所有者の意向を確認する必要がある農地

→ 用途区域境

令和元年度の意向調査や地域の話し合いを通じて、地区の課題を取り纏めました。  
●現状 用途区域境界

①川添エゴマ管理耕作組合が中心経営体となり、集積が進められている。

### ●中心経営体の課題

①震災以降の新たな農作物としてえごまの栽培は、今では町の特産化されつつある。今後もえごまを主体とした生産技術や加工技術を軸に効率化・有効的な土地利用を図る必要がある一方、今後、ほ場整備後のえごまと工業米とのすみ分けも考えていく必要がある。

### ●地域の課題

- ①住民のほとんどは避難先が生活の拠点となっており、避難先からの通作者・委託農家が増えている。
- ②今後の農地の維持管理で、畑作、水田の水管理や草刈り等の負担のかかる作業について検討していく必要がある。
- ③大型機械の導入により作業効率のアップと省力化を図り、外部参加者や新規就農者の確保につながる基盤整備事業を進めていく。
- ④新規就農者が地区内で活動しており、市街地に近い利点も生かした若者が集える新しい地域づくりの具現化が求められている。

### 必要な取り組み

- ① 外部からの就農者（若手の就農者、新規事業者）と協力した新しい地域づくりの形を模索していく。
- ② 農業生産効率の向上や農地の集積・集約化を図るため、農地の大区画化・パイプラン科盤整備に取り組む。

### 農地の集積化に関すること

- ① 農業を持続的に継承するため、中心経営体である「川添エゴマ管理耕作組合」に農地を集積し、農業の安定化を目指す。

### ●座談会で頂いた声

#### ◎地域づくり

- ・この地区は、市街地にも近く生活環境に恵まれている。新たな若手の就業者がこの地に低杓子、新たな地域づくりに期待している。
- ・これまでに浪江町で知り合った多くの方々の縁を生かして、一緒に浪江町の農業を盛り上げていきたい。農業法人化も視野に入れており、町を盛り上げるために、いろいろな事業を考えている。（新規就農者）
- ・農業で町を盛り上げたい。まずは、川添地区から始めたい。

#### ◎事業への取組

- ・新規就農者として玉ねぎを生産しているが、今後の課題は、資金面の工面、新たな農地の確保。
- ・工業米の収量をあげるための作付や地域にあった作付け方法などで試行錯誤している。
- ・ほ場を拡張するために適格農業法人化を取得予定。土地の購入も含め考えたい。

#### ◎地域への貢献（情報発信拠点）

- ・カフェを経営しており、地元の食材を利用して料理を提供している。地域の情報発信拠点として地元へ貢献したい。

#### ◎避難先からの支援

- ・町外に生活拠点があるが、地区の仲間とともに何ができるか考えている